

日鉄物産システム建築

従来比 25%の工期短縮 物流拠点整備の課題を解決

活用を」とアピールするのは日鉄物産システム建築（本社＝東京）。

同社は、工場、倉庫、店舗の建築において「低コスト」「短工期」「高い耐震性」「多彩な外観デザイン」「環境への配慮」「安心のメンテナンス」などの建築主のさまざまなニーズに対応できるシステム建築を自社開発している。

「システム建築の専門メーカー」。

従来比25%の工期短縮で、2024年・25年問題に対する物流の効率化・拠点機能整備の課題に、柱ピッチを拡大して解決に「システム建築」

型「ネオ」、自由設計型の「トレオ」の3商品に、柱ピッチを拡大してレイアウトの自由度が増

平屋専用規格型

の「デフォ」、規格進化型の「ネオ」、自由設計型の「トレオ」の3商品に、柱ピッチを拡大してレイアウトの自由度が増

部材不足、納期の長期化で工程の見通しを立てにくい中、短工期で確実な

事業のきつかけは、旧住友金属工業（現日本製鉄）で、建設業界の将来

多々あった。その誤解は一般の人々だけではなく、建設業界の人々も同様で、客先となり得るゼネコンや設計事務所へ個別訪問しながら「システム建築」の商品内容・メリットに関する地道なPRを継続していく必要があった、と振り返る。

旧耐震基準で建設された古い建物や搬入・搬出動線が非効率な倉庫の建て替え、内部で働く人々の労働環境を改善するための高断熱仕様の工場の建設など、さまざまな需要に対応できるシステム建築のメリットがマッチしたことで、需要が急速に伸びている。

最近のトピックスとしては、冷蔵・冷凍倉庫の

は、物流大手も投資を加速させている。車のEVシフトに伴うリチウムイオン電池の保管需要が増加するとともに、半導体製造工程に必要な化学品、高圧ガスなどの保管需要も喚起。規模も100平方メートル以下（平屋）と制約がありシステム建

築には適した内容と説明する。直近5年間で20件、39棟の実績がある。

さらに、「基礎」「鉄骨」「屋根」「外装」の各システムのバリエーションも豊富で、敷地条件や内部レイアウトに対する要望に対し、適応範囲が広い点が大きな強み。また、現在の資材価格の高騰、

特に「人手不足」を解決する一つの有効な手段としてシステム建築は認識されつつあり、近年引合が増加、同社の2025年上期の受注額は対前年度40%増の200億円と過去最高額を記録。

また商品に関しても主に小規模建築に向いているプレハブ工法と同じだろうと思われるケースも

42万平方メートル、24年284億円（182棟、39万平方メートル）。

同社が今取り組んでいるのが物流業界の中継基地としての倉庫の建設。倉庫分野では「eコマースの拡大」に加え、「物流2024年問題への対策としての新規デポ立地」といった狙いの倉庫需要があるという。

危険物倉庫について

00平方メートル以下（平屋）組立がメインのため作業効率が良く、在来工法よりも人件費を大幅に抑えられる。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。



取締役 貴也 鶴田

納期を約束できる点も大きなメリット。建築主の多様なニーズに適応する商品のラインナップと独自の基礎

システムで、24年の建設業問題「人手不足」「現場の高齢化」「過重労働」に、同社は業界随一の豊富な商品バリエーションで応えている。

「事業開始当初からしばらくの間は、商品である『システム建築』自体の認知度が極めて低く、『建築関係のソフトウェアを販売している会社』などと誤解をされることが多くあった」と話すのは鶴田貴也取締役。

会社設立から18年で、売上高が約10倍になった。直近の売上高推移は、21年3月期235億円（247棟、48万平方メートル）、22年261億円（217棟、49万平方メートル）、23年322億円（239棟、

ニーズが高まっていること。」「冷凍・冷蔵・定温といった保管温度管理を厳格化した倉庫や危険物倉庫といった機能別の需要が高まり、問い合わせが相次いでいる。この分野の営業を強化している」（鶴田取締役）と話す。

危険物倉庫について

は、物流大手も投資を加速させている。車のEVシフトに伴うリチウムイオン電池の保管需要が増加するとともに、半導体製造工程に必要な化学品、高圧ガスなどの保管需要も喚起。規模も100平方メートル以下（平屋）組立がメインのため作業効率が良く、在来工法よりも人件費を大幅に抑えられる。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。

「倉庫や工場建築の分野において、700〜7000平方メートル規模のマーケットでは、当社を含むシステム建築のシェアは30%を超えていると推定される。今や『システム建築』はこの領域においてはスタンダードな工法になりつつあり、今後そのシェアはさらに拡大していくと考えている」（同）と期待を込める。



名古屋貨物運輸倉庫の危険物倉庫4棟と一般倉庫1棟（愛知県春日井市、元請施工は日東建設）